

基盤技術研究促進事業(民間基盤技術研究支援制度)

平成 19 年度終了評価結果

平成 21 年 2 月 4 日

研究開発基推進部

平成 19 年度は、15 年度採択の 3 プロジェクトに対して終了評価を実施した。評価結果は以下のとおりである。

【総合評価結果 と ランク付け内容】

総合評価	ランク付け内容
	技術・事業化可能性評価の合計が 80 点以上
	技術・事業化可能性評価の合計が 66 点以上 80 点未満
	技術・事業化可能性評価の合計が 66 点未満

【終了評価結果】

分野	受付番号	テーマ名	委託先	総合評価	担当部	技術評価所見	事業化評価所見
ナノテク材料	15K018	超高濃度オゾン活用の高品質Si酸化膜低温形成技術と装置の開発	株式会社明電舎		ナノテク・材料技術開発部	基本計画に記述された目標はほぼ達成され、その成果は従来技術に比べて明らかに優れている。今後は、用途・市場ターゲットを見据えた実用化開発が必要である。	フレキシブルディスプレイ市場の立ち上がりが遅れたことにより、ターゲット市場を半導体市場へ大幅に変更しているが、転換はうまくいったものと推測される。重要なのは市場の変化に対する適切な対応であり、本件もその点を評価したい。
	15K205	近接場利用次世代カソードルミネッセンス及びラマン分光装置開発	株式会社東レリサーチセンター 株式会社日立ハイテクノロジーズ 株式会社フォトンデザイン		ナノテク・材料技術開発部	多くの企業・機関が連携して、世界に類を見ない装置を実現したことは、画期的な成果であると評価できる。将来この測定法に基づき、広範なナノ構造評価に活用されるようになれば、そのインパクトは極めて大きい。	事業計画は堅めであり、計画にある売上、収益は十分達成可能と考えられる。ナノテクの市場は将来大いに期待でき、分析装置へのニーズが強まってくることは間違いない。中長期的な成長には、世界市場への展開が必要である。
製造技術等	15K241	高度製造技術と革新的設計の融合による汎用小型衛星の研究開発	東大阪宇宙開発共同研究組合		機械システム技術開発部	発展実証モデルはまだ時間がかかる感があるが、一定の成果を得たことは大いに評価できる。大学および中小企業を中心とする組織で本格的な人工衛星を開発するという、社会的にも大きな関心を引き起こしたプロジェクトであり、今後もこうしたチャレンジを続けていくことが必要である。	製品化、売上げの期待は大きいものの、事業計画の確実性は低い。最大の課題はフライト実績レベルの信頼性をいかに保障するかである。今後の関係者の努力により事業として成功することを期待する。